

## 14 授業者課題論文作成方法

### (1) 研究授業後に課題論文を作成する意義・価値

- 自己の授業についての記録を残すことができる。
- 指導案と共にデータベース化することで、校内研究の貴重な財産となる。
- 研究協議会で出された意見や講師の先生からのご指導を改めて自分で考える機会となる。

### (2) 授業者課題論文モデル ◆A4、1枚（書式は標準） ◆書き方は以下のモデルを参照

行	内容	本文
1	タイトル	第4学年算数科「小数のかけ算とわり算」の研究授業を終えて
2	指導者名	主任教諭 ○○ ○○
3	(指導日時・	(平成24年○月○日 第○校時 第4学年○組)
4	対象)1行空	
5	日々大切に	<p>私が授業の中で大切にしていることは、子供が自ら考えたり、気付いたりしながら学習を進めていくことである。教師に一方的に教えられたものと、子供が自ら気付いたことでは、明らかに後者の方が子供の中に残るものは大きい。また、学ぶ喜びも後者の方が大きいに違いない。授業では、考える場面を子供の実態に合わせて設定すること、子供の考えや気付きを知識や理解に結び付けていくことが、教師の役割だと思っている。</p> <p>本時の授業は、(小数第2位)×(整数)の計算のしかたを考えることがねらいであった。ほとんどの子供たちはこれまでに学習した、(小数第一位)×(整数)の計算のしかたをもとに考えることができた。自分の考えをノートに書いたり説明したりしたことにより学習の理解が進んでいたこと、これまでの授業で発表に使用した図や式を掲示したことで、既習事項を使って考え進めることができたのではないかなと思う。</p> <p>研究協議会の中でも、子供が自ら考えることができるようにノート指導を進めてきたことや、子供に見やすく図や式を書かせる工夫については評価を得た。単元の初めには、戸惑いを見せていた子供たちも、自分の考えを書いたり説明したりすることができるようになったことは、私自身も成果だと感じている。</p> <p>大きな反省点は2点ある。子供たちが各自の考えを発表した後のまとめの部分と、かけられる数が小数第2位になるという、これまでの考え方との違いを押さえる部分である。1つ目の反省点については、本時の算数科の学習で、子供に学ばせたいことをはっきりとつかんでいなかったことが原因だと考えている。子供それぞれが自分の考えをもち、それを説明することができたら、それをもとに本時の学習内容の理解へと深めていかなければならない。子供に何を理解させたいのかが明確になっていれば、そのために子供のどの発言をつなげていけばよいのかを考えられたのではないだろうか。今回の授業では、ねらいとまとめが十分につながっていなかったと反省している。2つ目の反省点については、時間がまだ足りないという気持ちで、扱いが甘くなってしまった。量感を養うという点でも大事な部分だったので、もっと丁寧に扱うべきであった。</p> <p>これらを改善していくには、次の2点を心にとめて授業をしていくことが必要だと考える。1点目は、本時のねらいをより明確にしていくことである。ねらいを明確につかんでいることで、子供の考えや気付きをまとめにつなげていくことができる。2点目は、内容を精選することである。あれもこれもと考えると、中途半端になってしまう。「これが分かった。」と子供が感じられる授業にしていきたい。</p> <p>今回、研究授業をさせていただいて、反省することは多いものの、授業をする上で大切にしなければならないことに改めて気付くことができた。今後も子供たちが自ら学ぶ授業ができるよう、努力していきたい。</p>
6	していること	
7		
8		
9		
10		
11	授業を終えた感想(自評の一部)	
12		
13		
14		
15		
16		
17	研究協議会の指摘と感想	
18		
19		
20		
21		
22	課題点、反省点	
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32	改善策	
33		
34		
35		
36		
37		
38	まとめ	
39		

○自分が日々の指導で大切にしていること（哲学）をまず語る。

○研究協議会を受けて、成果と課題について書く。

# 15 教科のねらいを達成させるための個人言語スキル

	低学年	中学年	高学年
書く	<ul style="list-style-type: none"> <li>○じぶんの考えをくわしくかく。</li> <li>• かくためのざいりょうをあつめる。</li> <li>• 「まず」「つぎに」「さいごに」など、じゅんじょをあらわすつなぎことばをつかってかく。</li> <li>• ともだちのかいた文をよんで、じぶんとおなじところ、ちがうところを見つける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えを整理して書く。</li> <li>• 書く上で必要な事ごらを調べる。</li> <li>• 書こうとする中心を決める。</li> <li>• 事実と考えを分けて書く。</li> <li>• 初、中、終のまとまりを意しきし、だん落を付けて書く。</li> <li>• 「しかし」「だから」「なぜなら」など、前後の関係を示すせつ続語を使って書く。</li> <li>• 友達の書いた文を読んで、その明確さについて意見をのべる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○根きよを明確にして、自分の考えを書く。</li> <li>• 「このように」「つまり」など、要約する接続語を使って書く。</li> <li>• 文章やグラフ、表など、必要な資料を引用しながら書く。</li> <li>• 結論から書く。</li> <li>• 友達の書いた文を読んで、表現の仕方について意見を述べる。</li> </ul>
読む	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間やことごらのじゅんじょをあらわすことばを見つける。</li> <li>• 「はじめに」「つぎに」「さいごに」にせんを引く。</li> <li>• しゅご、じゅつごに気をつけてよむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○それぞれの段落の中心となる文や語を見つける。</li> <li>• 題名とつながりがあると思う言葉に線を引く。</li> <li>• くり返し出てくる言葉に線を引く。</li> <li>○事実と意見をくべつする。</li> <li>• 事実には____、意見に____を引く。</li> <li>○要約する。</li> <li>• 中心となる文や語に線を引く→せつ続語を使ってキーワードをつなげる→意味が通じるような文章にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○要旨（ようし）を的確にとらえる。</li> <li>• 段落ごとの要約をする。</li> <li>• 段落構成図をかく。</li> <li>○自分の考えを的確にしながらかく。</li> <li>• 筆者の意見を引用して、自分の考えを表す。</li> </ul>
聞く	<ul style="list-style-type: none"> <li>○はなしをさいごまできく。</li> <li>• はなし手を見てきく。</li> <li>• さんせいのばあいには「おなじです。」、はんたいのばあいには「ちがういけんです。」とはっきりいう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えと比べながら聞く。</li> <li>• 話をうなすきながら聞く。</li> <li>• 相手の言葉を使い、不明な点を聞き返す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し手の意図をつかみながら聞く。</li> <li>• 大事な言葉をメモしながら聞く。</li> <li>• 要点をとらえながら聞いて、書いたり話したりする。</li> </ul>
話す	<ul style="list-style-type: none"> <li>○じぶんのかんがえをくわしくはなす。</li> <li>• りゆうをつけてはなす。</li> <li>• じゅんじょをあらわすことばをつかってはなす。</li> <li>○あいてにきこえるようにはっきりはなす。</li> <li>• 体のむぎとこえの大きさをいしきしてはなす。</li> <li>• 「です」「まず」をつかってさいごまではっきりとはなす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えを整理して話す。</li> <li>• 結ろんを言ってから理由を話す。</li> <li>• つながりを示す言葉を使って話す。</li> <li>○相手に分かるように話す。</li> <li>• 図や表、具体物を示しながら話す。</li> <li>• 相手に同意を求めながら話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○根きよを明確にして、自分の考えを話す。</li> <li>• 根きよとなる事実をもとに話す。まとめる言葉を使って話す。</li> <li>○相手に意図が伝わるように話す。</li> <li>• 資料を活用したり、例を示したりしながら話す。</li> <li>• 相手の考えを引用したり、まとめたりして話す。</li> </ul>
調べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○もくてきをもってしらべる。</li> <li>• しらべたいことをはっきりさせ、ポイントにそってかんさつし、しらべる。</li> <li>• わからないことや知りたいことをたずねたり、本をつかってしらべたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的に合った方法で調べる。</li> <li>• 教科書、資料集、地図帳、図書資料、コンピューター等を使って情報を収集する。</li> <li>• 手紙、電話、ファックス、インタビューなどで情報を集める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的に合わせて効率よく調べる。</li> <li>• 目次や索引、コンピューターの検索機能を使って、必要な情報を収集する。</li> <li>• 適切な方法を選択して、必要な情報を集める。</li> </ul>
評価する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○よい点やかだいをを見つける。</li> <li>• まえのじぶんとくらべてじぶんのよい点やかだいをかいたり、はなしたりする。</li> <li>• じぶんとくらべてともだちのよい点やかだいをかいたり、はなしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○よい点や課題を見つける。</li> <li>• 理由を示しながら自分のよい点や課題を書いたり、話したりする。</li> <li>• 理由を示しながら友達のよい点や課題を書いたり、話したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○よい点や課題を見つける。</li> <li>• いくつかの理由を示しながら、自分のよい点や課題を書いたり、話したりする。</li> <li>• いくつかの理由を示しながら友達のよい点や課題を書いたり、話したりする。</li> </ul>

# 16 学び合いを高める対話言語スキル

## 学び合いで使う言葉

	①個人言語力 <small>こじんげんごりょく</small>	②対話言語力 <small>たいわげんごりょく</small>	③言語力を高めるための道具 <small>げんごりょく たか とうぐ</small>
1	「順序」 ●まず、次に、最後に	○わからないことをたずねる。 ・いつ、どこで、だれと、どうした、どのように、なぜ	◆付せんを使ってならびかえる。
2	「順位」 ●1番目は・・・ 2番目は・・・なぜなら	○詳細をたずねる。 ・もう少し…についてくわしく話して下さい。	◆付せんをうごかす。
3	「同じ所」「違う所」 ●同じ所は・・・ ●違うところは・・・	○比べる ・わたしは…と思うけど、どう？	◆チェーン図にまとめる。
4	「比べる」 ●～は、△より・・・ ●～は、△に比べると・・・	○理由 ・どんなことからその理由を考えたの？	◆論点を明確にし、表にまとめる (記号にする)。
5	「仲間分け」 ●似ているものをまとめて題をつけると・・・	○確認 ・それは…ということですか？	◆マトリックスで整理する。
6	「共通点」(帰納的) ●口と口から分かることは ●口と口の共通なところは	○言いたいことを問う。 ・言いたかったことは…ですか？	◆色別(同じ考え)のシートをはる。
7	「関係」 ●口と△の関係は ●口が～すると△が～に変わります。	○まとめる ・まとめて見ると…ということですか？	◆線で結び、関係性を記入する。
8	「きまり」 ●口のきまりがあるそうです。 なぜなら・・・	○例 ・例えばどんなことがありますか？	◆付せんをKJ法でまとめる。
9	「あてはめ」(演繹的) ●このきまりにあてはまるのは・・・	○経験 ・わたしの時は…でしたが、そうでしたか？	◆キーワードをつけてまとめる。
10	「原因と結果」 ●口になった原因を考えてみると	○立場 ・～の立場で考えたらどうか？	◆棒グラフや折れ線グラフに表す。
11	「条件」 ●口になるための条件をいくつか考えてみると	○場合 ・～の場合はどうかな？	
12	「理由と予想」 ●たぶん口になります。なぜなら・・・ ●もし、口であるなら△になります。		
13	「視点」 ●口から考えると～ですが △から考えると・・・		

## 17 研究授業参観の約束

### ◎授業開始時刻 3 分前には教室入りしなさい

授業が始まる前の子供たちの雰囲気、学習用具の整頓の様子、学級掲示物・・・授業提案以外にも学ぶべきところが多々あります！

#### 【授業前確認ポイント】

- 小柳学習ルール of 定着状況
- 学級掲示物
- 学習形態
- 学習準備
- 学習経過作品
- 子供の学習ノート
- 子供の集中のさせ方 . . . 等

### 服装にご注意を！

参観者は、多くを学ぶ気持ちで・・・授業者は、自身の指導を振り返る気持ちで・・・研究授業を授業改善のために活用していきましょう。

提案してくださる授業者やご指導をいただく講師の先生に失礼がないように、開始時刻前に必ず集合し、参観の準備をしましょう。尚、教室には奥から詰めて入ります。

当たり前のことですが、今一度全員で徹底していきましょう。

協議会の中では、分科会提案が研究目標達成に向けてどのように有効だったかを検証することになります。しかし、授業者の先生から学ぶべきことはその他にもたくさんあります。特に若手は、貪欲に情報を集め、学ぶ姿勢をもつことが大切です。

### ◎授業記録を録りまし

教師の働きかけが有効だったかどうかを検証するためには、明確な事実を根拠として協議する必要があります！

経過	学習活動	○成果 △課題 ●改善
	T (教師) C (児童)	○~~~~~ △~~~~~ ●~~~~~

・経過欄には時刻を記録し、授業を時系列で記録していく。

・授業中の教師の指示・説明・発問等働きかけを「T」で記録する。  
・授業中の児童の反応（発言、つぶやき、行動）等を「C」で記録する。  
・目に見える行動記録だけでなく、学習の雰囲気等、目に見えない部分も記録する。

・自分なりに成果や課題、改善策を書き込みながら記録を完成させる。

教師の働きかけと児童の反応で授業を見取る力を付ける！

#### 【刺激と反応で観察する】

自分なりに考えながら授業を見取ることは、この後の研究協議会を活性化する上でも重要です。また、記録を書き貯め、後で振り返ることは、自己の授業改善にも直結します。提案者への礼儀としても記録を確実に録りましょう。



